

新刊

□大場達之, 宮田昌彦: 日本海草図譜 A3版. 114 pp. 2007. ¥24,000. 北海道大学出版会. ISBN: 978-4-8329-8175-1.

見開き2頁に一種ずつ, 日本産のすべての海草30種のA3版カラー図譜は圧倒的である。「生けるがごとく」という言葉がそのまま当てはまる。花序, 果実, 種子, 葉の先端, 葉縁の拡大カラー, 葉や茎の断面の顕微鏡写真, 生態写真, 分布図を伴っている。おしぼ標本と同じサイズなので, 製本したもののばかりでなく, シートタイプにして標本と一緒にしておけば, 同定作業などに便利ではなかろうか。

この図譜は, 大型フラットベッドスキャナによる, 時期やサイズの異なる電子画像データをソフトウェアによって加工, 合成し, デジタルカメラによる顕微鏡写真なども取り込んだもので, その手法と歴史的な位置づけについて一頁を割いて解説されている。海草は写真が撮りにくく, 標本にすれば見るかげもなくなってしまうが, 生品では平面に収めやすく, スキャナによる画像化に向いている。とはいうものの前例のない技法で, 「スキャノグラフィ」と名付けられた。開発した大場・宮田両氏の工夫と努力に, 絶大な敬意を払うものである。今後の図鑑類の製作に, 大きな一石を投じるものだろう。さしあたり思いつくのは水草や海藻図鑑だが, 海草と似た形態なので, 同じ手法でできるのではないかと思う。しかし陸上植物となると三次元的にひろがっているのも, 更なる工夫が必要になるものと考えられる。また画像データを計測に利用する面でも将来性が見込まれる。スキャノグラフィの更なる発展を期待したい。

日本海草概説では, 著者らの未発表の予備的分子系統解析による系統樹と, それに基づくいくつかの示唆がなされている。科, 属, 種および栄養体による検索表が示されている。海草の群落体系の章では, わが国ではまだ十分な研究が行われていない中, 著者らの判断

による群落の記述がなされており, これも先駆的な仕事である。Seagrasses of Japanの章では, 検索表を主体とし, いくつかの新名も見られるが, これらは別途正式発表を行う予定とのことである。文献として134件が挙げられており, 海草研究に役立つだろう。環境指標として注目されながら, 同定が厄介な植物群を認識するのに, 有力な武器が出現したことになる。(金井弘夫)

□木原 浩 (写真)・大場秀章, 川崎哲也, 田中秀明 (解説): 新日本の桜 B5 263 pp. 2007. ¥4,200. 山と溪谷社. ISBN: 978-4-635-03192-6.

1993年に川崎哲也氏の解説で刊行された「日本の桜」が好評品切れとなり, その後を受けて, 写真のほとんどを更新して新たに企画されたものだが, 川崎氏が途上で亡くなられたため, 大場氏が解説を担当した。もともと川崎氏も, 林 弥栄氏の死去によって前版を解説することになったいきさつがあり, 一連の本書は出版社の難しい綱渡りの産物である。とくに今回は, 大場氏はサクラ類の属名として *Prunus* ではなく *Cerasus* を用いる見解なので, 前書とは学名が一新され, 「使いにくい」と感じる人もいるだろう。またこれに伴って多くの新学名, 新組み合わせが使われている。

内容は前著が分類群ごとにまとめてあったのに対して, 今回は野生のサクラの部と栽培のサクラの部に分かれており, 前者を大場氏が解説し, 後者は川崎氏の解説を田中氏が補ったものとなっている。前著にあった「桜の名所・名木」の項はなく, 代わりに「日本のサクラの歴史」(1.5頁), 「サクラの主な収集家・研究者」(3.5頁)が加えられた。木原氏の見事な写真も総入れ替えということもあり, 二冊手元に置いても損はしないだろう。

(金井弘夫)